

2012年5月14日現在

シリーズ 「グローバル人材のための教養講座」

岡山朝日高校の生徒諸君、

激動の時代に、外国企業や外国人と一緒に（あるいは相手にして）仕事する人はもちろん、国内で活躍する人にも「グローバル」な視野と発想が不可欠である。それには、国境を越えて共感できる誠実な人間力が求められ、そのためには、個別分野の知識の基礎となる、普遍性への信頼と個々の文化の理解、すなわち教養が必要である。ビジネスや研究の領域での仕事を通じてこの問題意識を共有する諸君の先輩が君たちに語りかける。

君たち高校生諸君に期待するところ大である。

■講座の日程

6月6日(水) 14:15~15:45(90分) 高1生全員参加。総合学習(ACT)の授業として実施。

6月23日、9月29日、10月6日、11月10日、11月17日(いずれも土曜日)10:40~12:40

■各回の構成(講師紹介は後記)

6月6日(水):

- ① この講座の狙い(グローバルとは、コミュニケーションとは) (板野和彦)
- ② “Edutainment” (参加型英語講座) (沓澤哲太郎)
- ③ 公正(fairness、フェアということ)について (小林省太)

6月23日(土):

- ① 『理系白書』で見た科学者・技術者と日本社会との関係ー日本と世界の科学技術ー (瀬川至朗)
- ② グローバル人材とは、コミュニケーションとは (板野和彦)
- ③ 英語を学ぶヒント(1)

9月29日(土):

- ① 宇宙元素合成と原子力 (放射線やその人体への影響、日本のエネルギー事情の解説も含む) (井頭政之)
- ② 英語を学ぶヒント(2)

10月6日(土)

- ① 建築家の仕事ー建築は工学、哲学、芸術の総合ー (今井俊介)

- ② 世界は何故とけてなくなるのか？（有機物が自然史の中でどのように安定性を獲得して現在の世界を形作るに至ったかを、樹木の進化にスポットをあてながら、有機化学の問題として考える）（松本雄二）
- ③ 英語を学ぶヒント(3)

11月10日(土)

- ① コミュニケーションと演劇ービジネスシーンで使われるスタニスラフスキー・システム（松坂晴恵）
- ② 企業からのコミュニケーションー経営者のメッセージ発信作業の実際（井上眞理）
- ③ 英語を学ぶヒント(4)

11月17日(土)

- ① ビジネスとしての翻訳（清水知良）(交渉中につき略歴未掲載)
- ② 英語を学ぶヒント(5)

■講師からのメッセージ・講師紹介（順不同）

(1) 小林省太(こばやししょうた) 日本経済新聞論説委員（東京教育大附属駒場高校、東大文学部（フランス語・フランス文学科）卒）

もし現役高校生の方々と話し合うならば、「公正」とは何かについて一緒に考えたいと思っています。マイケル・サンデル教授（ハーヴァード大）の「正義」の向こうを張るわけではありませんが、わたし自身は正義より公正をもう少し身近なものだと考えています。我々のような仕事をする人間にとって、公正な報道とは何か、は常に念頭を離れませんが、公正な社会とは、あるいは公正な人間とは、という問題を例えば欧州の政治問題などともからめながらお話し、若い方々の考えも聞ければ楽しいだろうと考えています。決して難しい話ではなく――。

(2) 井頭政之(いがしらまさゆき) 東工大教授・原子力工学（東工大・同院卒、朝日高校0B）
「宇宙元素合成と原子力」：私達の宇宙は137億年前のビッグバンで開闢（かいびやく）したと考えられています。私達を含めた物質の根源である原子核や原子は何時・何処で作られたのだろうか？また、放射線や放射性物質は特殊なものだろうか？何故、20億年前には天然の原子炉が存在したのだろうか？このような根本的な話をします。さらに、福島原発事故を踏まえて、放射線や放射線の人体影響についても分かりやすく解説します。また、日本のエネルギー事情についても簡単に解説します。日本のエネルギー安定長期確保について一緒に考えましょう！

(3) 松本雄二 (まつもとゆうじ) 東大教授・木材化学 (東大農学部・同院卒、朝日高校 0B)
自然史とは何か? この世の有機物の世界が歴史的にどのように安定性を獲得して現在の世界を形作っているか、ということ、身近にある樹木の進化を通じてお話しする。すなわち、有機炭素と無機炭素との間のカーボンサイクルの問題。この問題は地球温暖化の原因と言われる二酸化炭素をエネルギーに変えることによりエネルギー問題と環境問題の双方の解決に資する炭素循環の研究でもある。そのベースには、化学の授業で習う諸反応を決して偶然のもの寄せ集めとして見るのではなく、そうあるしかないじゃないか、というものが見出せる対象だとの理解の上に立つ。

(4) 瀬川至朗 (せがわしろう) 早大教授 (元毎日新聞) (東大教養学部卒、朝日高校 0B)
瀬川さんは『理系白書』の企画立案者。いまの時点でもう一度「理系白書」の内容を論じる。「文」「理」の分離・対立は、日本の官僚政治においても企業の中でも牢固とした悪弊となっているうえ、個々人の科学観・世界観形成においても大変大きな障害になっていると考える。

(5) 今井俊介 (いまいしゅんすけ) 建築家 (大阪府立北野高校、京大工学部、同院卒)
建築家とは奇抜な建物を設計する人という印象がある。建築家の仕事とは、「住空間」(必ずしも住居に限定されない。ホテルもオフィスも教会も宮殿も)に対する人々の要望や希望を現実の「建築物」に置き換えることであると考えれば、それは工学的製品であり芸術分野における作品を創ることであるとともに、人間のあり方の学問である哲学の一分野の仕事でもある。欧米の大学では、建築学科は工学部の一学科としてではなく、建築学部として設置されているのはそのためである。

(6) 井上眞理 (いのうえまこと) 元サントリー勤務 (大阪府立北野高校、京大法卒、ノースウェスタン大 MBA)
高校3年生のとき1年間米国留学 (AFS。ワシントン州)。会社で人事、経営企画、飲料や健康食品のマーケティング・事業広報を担当。第2外国語ロシア語。文学 (現代詩を含む)、歴史はもちろん、たいていのことに詳しいマルチ人物。サントリーで佐治社長・会長、鳥井社長のスタッフ・スピーチライター、財界活動スタッフも担当。ビジネススクールでは、専攻は組織論だが、「マーケティングの神様」コトラ教授の授業にもものぞむ。

(7) 松坂晴恵 (まつざか はるえ) 女優・劇団主宰 (慶応大学法学部卒、朝日高校 0B)
君たちの演劇部の先輩。日本唯一のミステリー演劇集団「劇団フーダニット」(Whodunit) 主宰。上演のための外国戯曲の翻訳も手がける。大学では法医学や犯罪心理学も勉強し、青少年犯罪者とも直接に交流。Drama や Speech の授業で、単なるスキルやノウハウでない、効果的なコミュニケーションのための方法を教えている英国や米国では、演劇のメソッドの『スタニスラフスキー・システム』や『メソッド演技』などが実際のビジネス・シーンでも生かされている。コミュ

ニケーションとは何か。この講座でその一部を実際にやってみる。

(8) 沓澤哲太郎(くつざわてつたろう) 英語指導・教育スクール経営 (早稲田大学商学部卒)
大学卒業後、食品会社を経て電機メーカーに13年間勤務、内9年をアメリカで過ごしました。
帰国後は外資や合併事業の設立などに携わり、中国でも中国IT企業の国際事業のお手伝いを
しました。現在は小中高生向けの英語スクールの運営をしながら、中高生向けの英語教材の制作を
しています。今回は実践的な練習を通じて、英語を使うとはどんなことかを皆さんにお伝えした
いと思っています。Looking forward to seeing you!

(9) 板野和彦(いたのかずひこ) 国際石油開発帝石勤務(東大経済学部卒、朝日高校OB)
高校3年生のとき1年間米国留学(AFS。カリフォルニア州)。理系クラスにいたが経済学部を受
験。日本ではあまりなじみのない石油・天然ガス開発の分野に進む(3年間ワシントン駐在、4
年間ヒューストンのエクソンモービルに出向)。サハリナー1プロジェクトなどで産油国やオイ
ルメジャー始め国際石油会社とともに仕事をしてきた。この分野は、地質や石油工学、プロジェ
クトマネジメントなどのいわゆる技術系専門家と交渉や契約などの非技術系専門家とが総合的
に協働する。欧米石油会社のみならずロシア、中国、中東諸国等の政府・国営石油会社との交渉・
交流経験から、「グローバル化」をビジネスがボーダーレスに展開することととらえ、異文化間
コミュニケーションの実際をお話ししたい。大学、大学院での経済学史の勉強やクラシック音楽
を通じた内外の友人との交流についても触れたい。